

キウス周堤墓群のご紹介 (千歳市教育委員会埋蔵文化財センター)

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である千歳市のキウス周堤墓群について紹介します。

本構成資産は縄文時代後期後葉（約 3200 年前）の集団墓地群の遺跡です。ほかの遺跡に例を見ない大型の周堤墓を主体に 9 基の周堤墓が小川の両岸に分かれて群集しており、約 2 ヘクタールに及ぶ広い墓域を形成しています。

周堤墓は特異な構造をとる墓地遺構で、環状の土堤「周堤」に囲まれた竪穴に複数の土坑墓を設けたものです。一般的には周堤規模が外径約 10~30 メートルであるのに対して、本構成資産では現況で 7 基が 50 メートルを超え、最大のものは外径が約 80 メートル（1 号）、竪穴底面から周堤天端までの高さが 4.7 メートル（2 号）にも達する破格の規模で「世界史的にも狩猟採集民が築いた構造物としては最大級」（文化庁）と評価された傑出した存在です。

本構成資産自体は詳細な発掘調査をしていないため全容は明らかではありませんが、埋葬儀礼・祖先崇拜祭祀の場と考えられる墓地群の独特なつくりや当時の人々の精神性を見出すことができます。火山灰に覆われて現存する周堤墓群を地表から目視することができる本構成資産は、縄文時代の墓地群の有り様を私達に教える貴重な景観を残しています。



▲ キウス周堤墓群

NEWS

土偶と埴輪の祭典「ドニフェス2022」開催！

縄文時代を中心に、土偶・埴輪（ドニワ）をテーマとして、専門家の先生による講演会、縄文女子の妄想トークのほか、パネルの展示、気軽に体験できるワークショップやなぞとき、オリジナル雑貨の展示販売を行う、大人も子供も楽しめるイベントです！

ドニフェス 2022 〈入場無料〉

日時：2022年9月24日（土）・25日（日）11:00~17:00

場所：カナモトホール 第1・第2会議室（札幌市中央区北1条西1丁目）

（主催・お問い合わせ：ドニワ部 info@doniwab.com）



編集後記

このたび『北の縄文』24号の発行にあたり、道南縄文文化推進協議会会長 境勝則様にご寄稿をいただきお礼申し上げます。7月、世界文化遺産登録から1年の節目を迎えました。世界の縄文「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値や魅力を国内外に発信する新たな取り組みが、今、多くの方々によって進められています。「縄文ウェディング」（函館市垣ノ島遺跡）は、新発想ですネ。私も編集局一同、発想転換して頑張ります！（T・H）



CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2-3 夏の縄文関連イベントご紹介！
- P4 縄文世界遺産コラム  
北の縄文道民会議からお知らせ  
編集後記

巻頭あいさつ



道南縄文文化推進協議会  
会長 境 勝則

函館商工会議所副会頭  
（一財）道南歴史文化振興財団代表理事  
北の縄文道民会議 理事  
平成25年から縄文遺跡群の世界遺産登録を推進し、道南地域の地域振興を促進するため、函館商工会議所内に道南縄文文化推進協議会を設置。

長年の念願であった縄文遺跡群の世界遺産登録が実現し、早くも一周年を迎えました。これまで登録推進に取り組んでこられた地域の皆様はもとより、本会の活動に対しまして、あらためて深い感謝の意を表します。

さて、登録一周年を期に、ここで基本に戻り、なぜ縄文遺跡群の世界遺産登録に取り組んだのか？という原点に立ち戻ってみたいと思います。

私は函館商工会議所の副会頭という立場もあり、もちろん、世界遺産が函館に誕生することによって、インバウンドを含めた観光振興など地域の活性化に結びつける取組は必須のことです。

また、自分たちが生まれ育った地域に、国際社会に認められた世界遺産があることを誇りに思い、その郷土愛が、魅力ある地域づくりの基盤となることも期待しています。

しかし、縄文文化が自然の恵みのなかで、大きな争いもなく一万年以上も続いたことに私は驚きを感じています。その間に、地震や火山の噴火、あるいは気候の変化など様々な苦難があったと思います。

縄文時代の人々は、それをどのように乗り越えて命を繋いできたのだろうか？そのことを考えることが、縄文文化の現代的な価値の発見につながるのではないかと考えています。

現在、過度の開発による自然環境の破壊や紛争による人命の損失など、自然や命を大切にすることが失われつつある状況に陥っているのではないかと危惧しています。

こうした社会状況のなかで、縄文の人々の自然との向き合い方、あるいは命ある全てを尊重する心を発信することは、北海道として、とても意義があると思っています。

そのことを経済効果に繋げる道も大切です。いま、体験・自然・異文化の2つ以上を組み合わせたアドベンチャー・トラベル（AT）という旅行が注目されており、来年は北海道でその世界大会（ATWS）も開催されます。

ATの顧客層は、新しい価値観に触れる、自分自身の変化を求める、など新しいニーズを持っています。いまのところ、自然体験がマーケットを占めているのですが、異文化体験は未開拓の分野が広がっています。

こうした旅行を通して、縄文という新しい価値観に触れ、自分自身が変化することで、より良い社会の形成に繋がっていくことも、ユネスコの世界遺産活動として重要と考えています。



令和4年7月30日(土)から9月4日(日)まで、だて歴史文化ミュージアムにおいて、「発掘された日本列島 2022」展が開催されます。

この展示会は平成7年度から始まった文化庁の主催による全国巡回展で、令和4年度で第28回目となるものです。

『新発見考古速報』

日本列島では毎年約8,000件の発掘調査が行われており、このうち、近年発掘された遺跡や、成果がまとまった注目の14遺跡約360点が速報展示されます！

『我がまちが誇る遺跡』

それぞれの地域における継続的な調査研究で明らかになった「地域の歴史の魅力」の紹介です！今年度は、長野県富士見町の縄文時代の遺跡群(井戸尻遺跡群)、京都府京都市の公家屋敷跡から見る公家文化、和歌山県の岩橋千塚古墳群を中心とした紀伊の古墳文化の3テーマが取り上げられます。



画像出典：JOMON ARCHIVES

場所：だて歴史文化ミュージアム  
(伊達市梅本町57-1)  
開館時間 9:00~17:00 (最終受付16:30)  
(毎週月曜日休館(休日の場合は、その翌日以降の最初の平日))  
※「発掘された日本列島 2022」は特別展につき、観覧料は一般500円、小・中学生300円



世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である北黄金貝塚や続縄文期の有珠モシリ遺跡などからの出土品も展示されるそうです。ぜひご覧ください。

昨年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されました。

この世界遺産登録1周年を記念し、縄文遺跡群の次世代への継承のため、魅力的なまちづくりと、その原動力になり得る持続的な文化観光について考えるシンポジウムを開催します。

日時：令和4年7月31日(日)午後1時30分から  
場所：札幌グランドホテル「グランドホール」  
(札幌市中央区北1条西4丁目)  
※入場は無料ですが、事前申込みが必要です。  
詳しくは同封のチラシをご覧ください。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」の次世代への継承と、魅力的なまちづくりへの活用について一緒に考えてみませんか？みなさまのご参加をお待ちしております。